

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2013-154895
(P2013-154895A)

(43) 公開日 平成25年8月15日 (2013.8.15)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 21/02 (2006.01)	B 6 5 D 21/02 B	3 E 0 0 6
B 6 5 D 1/02 (2006.01)	B 6 5 D 1/02 C	3 E 0 3 3
B 6 5 D 1/26 (2006.01)	B 6 5 D 1/26 Z	3 E 0 3 5
B 6 5 D 85/50 (2006.01)	B 6 5 D 85/50 B	
	B 6 5 D 85/50 C	

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2012-15319 (P2012-15319)	(71) 出願人	000158943
(22) 出願日	平成24年1月27日 (2012. 1. 27)		株式会社積水技研
			兵庫県伊丹市鴻池1丁目11番5号
		(71) 出願人	000002440
			積水化成品工業株式会社
			大阪府大阪市北区西天満二丁目4番4号
		(74) 代理人	100106220
			弁理士 大竹 正悟
		(74) 代理人	100115613
			弁理士 武田 寧司
		(72) 発明者	水谷 伸二
			兵庫県尼崎市猪名寺3丁目5番13号 株
			式会社積水技研内
		Fターム(参考)	3E006 AA02 BA02 CA01 DA03 DB05

最終頁に続く

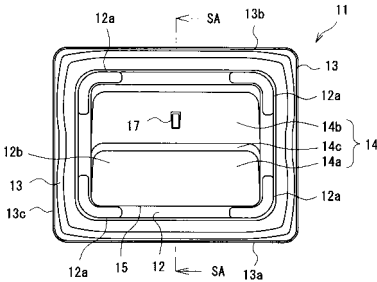
(54) 【発明の名称】 食品用包装容器の容器本体

(57) 【要約】

【課題】 食品を収容する容器本体と、外部から食品を視認可能で容器本体に被着させる蓋体とからなる食品用包装容器における容器本体について、容器本体の食品載置部に傾斜面を有すると、食品用包装容器を積み重ねて配置する際に垂直に積み重ねできない。

【解決手段】 下方に突出する脚部12aと脚部12aの内側で食品を載置する食品載置部12bとを有する底部12と、その底部12の端縁から上方に立ち上がる側壁13とを備えた容器本体11であり、この容器本体11に食品載置部12bには傾斜面14を設け、かつ、この傾斜面14から下方に突出しこの食品用包装容器を複数個積み重ねた際に蓋体の天面に係止する支え突起17を設けた。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

食品を収容する容器本体と、外部から食品を視認可能で容器本体に被着させる蓋体とからなる食品用包装容器における容器本体であって、

下方に突出する脚部と脚部の内側で食品を載置する食品載置部とを有する底部と、その底部の端縁から上方に立ち上がる側壁とを備え、

食品載置部には傾斜面と、この傾斜面から下方に突出しこの食品用包装容器を複数個積み重ねた際に蓋体の天面に係止する支え突起と、を設けた食品用包装容器における容器本体。

【請求項 2】

10

前記支え突起の先端と、前記傾斜面の下側基端とで形成する対蓋係止面が略水平であり、前記食品用包装容器を複数個積み重ねた際に、支え突起と下側基端とが蓋体の天面に対して略水平に係止する請求項 1 記載の容器本体。

【請求項 3】

食品載置部には水平部を設け、前記支え突起の先端と、この水平部とで形成する対蓋係止面が略水平であり、前記食品用包装容器を複数個積み重ねた際に、支え突起と水平部とが蓋体の天面に対して略水平に係止する請求項 1 または請求項 2 記載の容器本体。

【請求項 4】

前記傾斜面が、複数段に亘って形成される請求項 1～請求項 3 何れか 1 項記載の容器本体。

20

【請求項 5】

食品を収容する容器本体と、外部から食品を視認可能で容器本体に被着させる蓋体とからなる食品用包装容器における容器本体であって、

下方に突出する脚部と脚部の内側で食品を載置する食品載置部とを有する底部と、その底部の端縁から上方に立ち上がる側壁とを備え、

食品載置部を傾斜面とし、この傾斜面と 4 つの脚部との間に 4 つの水平部を設け、この 4 つの水平部で形成する対蓋係止面が略水平であり、前記食品用包装容器を複数個積み重ねた際に、4 つの水平部が蓋体の天面に対して略水平に係止する食品用包装容器における容器本体。

【発明の詳細な説明】

30

【技術分野】**【0001】**

本発明は販売用または持ち帰り用などとして用いられる野菜や肉類、総菜類等を収容する食品用包装容器の容器本体に関する。

【背景技術】**【0002】**

コンビニエンスストアやスーパーマーケット等において利用され、販売用の野菜や肉類、総菜類等を収容する食品用包装容器は、合成樹脂シートから成形され脚部で上げ底状に形成された底部と、底部の端から立ち上がる壁部とを有する皿型の容器本体と、透明な合成樹脂シートから成形され容器本体に被せる蓋体とから構成されている。

40

こうした食品用包装容器の一例として、特開 2002-95429 号公報（特許文献 1）には寿司用包装容器が記載されている。

【0003】

この特開 2002-95429 号公報（特許文献 1）に記載の寿司用包装容器は、寿司の収まりは良いものの容器本体に設けた敷居の中に埋まってしまうように見え、ボリューム感が感じられなかった。こうした問題は寿司に限らず、他の食品を収容する場合にも同様に当てはまる。

そこで、食品を収容した際にボリューム感を持って視認されるように、収容される食品の見栄えを良くする工夫がなされてきた。

【0004】

50

例えば、図 9 で示す容器本体 1 は、脚部 2 a を有する底部 2 と、その底部の周縁から上方に立ち上がる側壁 3 とを備え、平面視で略長方形となる皿状に形成されている。そして、食品の見栄えを良くする工夫として、脚部 2 a の内側の食品載置部 2 b を傾斜面 4 としている。この傾斜面 4 は、図 9 や、図 10 の断面図で示すように、長形状の側壁 3 の一辺 3 a 側から対向辺 3 b 側に向かってせり上がる前側傾斜部 4 a と後側傾斜部 4 b とが段部 4 c を境に 2 段に亘って連なったものとして構成されている。

【0005】

2 段に亘る傾斜面 4 に載置された食品は、食品用包装容器の斜め前方からの消費者の視線に対し、より正面に向くとともに、より立体的に視認されることになる。そのため、食品にボリューム感を持たせることができ、さらには全体的な見栄えを良くすることができる。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献 1】特開 2002-95429 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

食品用包装容器に収容された食品をスーパーマーケットなどで販売する際にはいくつかの食品用包装容器を重ねて置くことが通常である。容器本体 1 には脚部 2 a があるのでテーブルの上などに 1 つずつ置く場合には安定的に置けるものの、積み重ねて置く場合には、下になる蓋体の上に脚部 2 a を載せるのではなく、その脚部 2 a の内側の食品載置部 2 b を蓋体の上に載せるので、食品載置部 2 b に傾斜面 4 があると水平に重ねられないといった問題が生じる。

20

そこで、本発明は容器本体の食品載置部に傾斜面を設けた食品用包装容器を積み重ねて置いた場合にも安定して積層陳列することができる食品用包装容器の容器本体を提供することを目的としてなされたものである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

すなわち、食品を収容する容器本体と、外部から食品を視認可能で容器本体に被着させる蓋体とからなる食品用包装容器における容器本体であって、下方に突出する脚部と脚部の内側で食品を載置する食品載置部とを有する底部と、その底部の端縁から上方に立ち上がる側壁とを備え、食品載置部には傾斜面と、この傾斜面から下方に突出しこの食品用包装容器を複数個積み重ねた際に蓋体の天面に係止する支え突起と、を設けた食品用包装容器における容器本体を提供する。

30

【0009】

食品を収容する容器本体は、外部から食品を視認可能で容器本体に被着させる蓋体と併せて食品用包装容器を構成するため、食品を外部から遮断して収容することができる。また、食品用包装容器が蓋体を備えることで、容器本体を積み重ねる際に、食品を傷めずに積み重ねることができる。

40

下方に突出する脚部と脚部の内側で食品を載置する食品載置部とを有する底部を容器本体に備えるため、食品載置部を上げ底にすることができる。また、底部の端縁から上方に立ち上がる側壁を容器本体に備えるため、立体的な食品の形状を損なわずに収容することができる。

【0010】

食品載置部には傾斜面を有するため、食品用包装容器の斜め前方からの消費者の視線に対し、食品をより正面から見せることができる。また、奥行きをもって視認させることができ、食品をより立体的に見せることができる。さらに、傾斜面によって脚部の基端よりも高い位置に食品を乗せることができる。そのため、食品にボリューム感を持たせることができ、さらには全体的な見栄えを良くすることができる。

50

そして、この傾斜面から下方に突出しこの食品用包装容器を複数個積み重ねた際に蓋体の天面に係止する支え突起を設けたため、この支え突起を蓋体の上に当接させることができ、安定的に蓋体の上に容器本体を重ねることができる。即ち、支え突起がなければ、蓋体の天面に対して傾斜面が直接的に当接することで容器本体が傾くという不都合を回避することができる。

【0011】

支え突起の先端と傾斜面の下側基端とで形成する対蓋係止面が略水平であり、食品用包装容器を複数個積み重ねた際に、この支え突起と下側基端とが蓋体の天面に対して略水平に係止する容器本体とすることができる。

支え突起の先端と傾斜面の下側基端とで形成する対蓋係止面を略水平とすることで、食品用包装容器を複数個積み重ねた際に、この支え突起と下側基端とを蓋体の天面に対して略水平に係止させることができる。そのため、複数個の食品用包装容器を垂直に安定的に積み重ねることができる。

【0012】

支え突起は傾斜面の中央寄りに設ければ、傾斜面の下側基端となる直線部分と支え突起の先端となる1点とで三角形を作って蓋体の天面に当接させることができる。そのため、蓋体の上に安定的に容器本体を積み重ねることができる。

また、食品載置部に食品を乗せれば支え突起を隠すことができる。そのため、食品を収容すると支え突起の存在が外側からでは見えない容器本体とすることができる。

さらに、支え突起を有するため、食品載置部の全体を傾斜面とすることができる。食品載置部の全体が傾斜面であれば食品載置部の全体で見栄えの良い理想的な盛りつけを行うことができる。

【0013】

食品載置部には水平部を設け、前記支え突起の先端と、この水平部とで形成する対蓋係止面が略水平であり、前記食品用包装容器を複数個積み重ねた際に、この支え突起と水平部とが蓋体の天面に対して略水平に係止する容器本体とすることができる。

食品載置部には水平部を設け、前記支え突起の先端と、この水平部とで形成する対蓋係止面を略水平とすることで、食品用包装容器を複数個積み重ねた際に、この支え突起と水平部とを蓋体の天面に対して略水平に係止させることができる。そのため、複数個の食品用包装容器を垂直に安定的に積み重ねることができる。

【0014】

また、食品載置部に水平部を有するため、広面積の容器本体の場合には、食品載置部全体を傾斜面とする場合に比べて、傾斜面の下側端部から上側端部までの高を短くすることができる。そのため、必要以上に底部の位置が高くなったり、側壁が高くなったりすることを防ぐことができる。

特に、支え突起を傾斜面の中央寄りに設ければ、傾斜面の下側基端に位置する水平部と支え突起の先端とで蓋体の天面に当接するため、蓋体の上に安定的に容器本体を積み重ねることができる。

【0015】

食品載置部に設けた傾斜面を、複数段に亘って形成される傾斜面とすることができる。複数段に亘って形成される傾斜面を設けたため、前段にあたる前側傾斜部と後段にあたる後側傾斜部のそれぞれに載置する食品の間で段差が生じ、載置する食品の立体感をより一層感じることができる。そのため、食品の見栄えをさらに良くすることができる。

【0016】

そしてまた、食品を収容する容器本体と、外部から食品を視認可能で容器本体に被着させる蓋体とからなる食品用包装容器における容器本体であって、下方に突出する脚部と脚部の内側で食品を載置する食品載置部とを有する底部と、その底部の端縁から上方に立ち上がる側壁とを備え、食品載置部を傾斜面とし、この傾斜面と4つの脚部との間に4つの水平部を設け、この4つの水平部で形成する対蓋係止面が略水平であり、前記食品用包装容器を複数個積み重ねた際に、4つの水平部が蓋体の天面に対して略水平に係止する食品

用包装容器における容器本体を提供する。

【0017】

傾斜面と4つの脚部との間に4つの水平部を設け、この4つの水平部で形成する対蓋係止面を略水平とすることで、食品用包装容器を複数個積み重ねた際に、4つの水平部が蓋体の天面に対して略水平に係止する容器本体とすることができる。そのため、複数の食品用包装容器を垂直に安定的に積み重ねることができる。

【発明の効果】

【0018】

本発明の食品用包装容器の容器本体によれば、食品用包装容器の斜め前方からの消費者の視線に対しより正面に食品を向けることができ、より立体的に視認されることができる。そして、食品にボリューム感を持たせ、全体的な見栄えを良くすることができる。また、本発明の食品用包装容器の容器本体によれば、傾斜面を設けた食品用包装容器を積み重ねて置いた場合にも安定して積層陳列することができる。

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図1】第1実施形態の容器本体の平面図である。

【図2】第1実施形態の容器本体を示し、分図(A)はその正面図、分図(B)はその右側面図、分図(c)は図1のSA-SA線断面図である。

【図3】蓋体の平面図である。

【図4】図3の蓋体の正面図である。

【図5】第2実施形態の容器本体の平面図である。

【図6】図5の容器本体のSB-SB線断面図である。

【図7】第3実施形態の容器本体の平面図である。

【図8】図7の容器本体のSC-SC線断面図である。

【図9】底部に傾斜面を有する容器本体の平面図である。

【図10】図9のSD-SD線断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0020】

本発明の実施形態について、図面を参照しつつ説明する。なお、各実施形態において共通する構成、材料、製造方法、作用効果等については重複説明を省略する。

第1実施形態[図1～図4]：

図1、図2には野菜や肉類、総菜類等、特に刺身の収容に好適な食品用包装容器の容器本体11を、図3、図4にはこの容器本体11に被着させる透明な蓋体51を示す。食品用包装容器はこの容器本体11と蓋体51とから構成される。

【0021】

容器本体11は、下方に突出する脚部12aと、この脚部12aの内側で食品を載置する食品載置部12bとを有する底部12と、その底部12の周縁から上方に立ち上がる側壁13とを備え、平面視で略長方形となる皿状に形成されている。

側壁13は、その先端に設けたエッジ部13cで蓋体と係合する。

底部12に設けた脚部12aは、底部12の四隅で下方に突出しており、食品載置部12bを上げ底にして食品用包装容器をテーブル等の上に水平に置くことができる。

【0022】

そして、その上げ底にされた食品載置部12bは傾斜面14として形成されている。この傾斜面14は、図1や図2(C)の断面図で示すように、長形状の側壁13の一辺13a側から対向辺13b側に向かってせり上がる前側傾斜部14aと後側傾斜部14bとが段部14cを境に2段に亘って連なったものとして形成されている。

後側傾斜部14bの中央辺りには、下方に突出した支え突起17が形成されている。この支え突起17の先端は、食品用包装容器を複数個積み重ねた際に、後述する蓋体の天面に係止する係止面17aとなっている。この支え突起17の先端は蓋体の上に水平に重ねることができる位置まで突出している。

10

20

30

40

50

【0023】

蓋体51は、図3、図4で示すように、食品の上方を覆う天面52と、容器本体11と係合するフランジ部53と、そして天面52からフランジ部53に至る側面部54とから構成されており、下方に開口する伏凹形に成形され、容器本体11に対し被着自在とされている。

天面52は、容器本体11に収容された食品が見やすいように透明で平板状に形成されている。

【0024】

容器本体11に蓋体51を被せた食品用包装容器を縦に積み重ねるには、蓋体51の天面52が容器本体11の脚部12aの内側に入り込み、容器本体11の脚部12aの内側に沿って蓋体51の側面部54が位置するように配置する。

そして、図2(C)で示す傾斜面14の下側基端15、即ち、側壁13の一辺13aに連なる前側傾斜部14aの端部と、支え突起17における先端である係止面17aとを蓋体51の天面52に当接する。

下側基端15と係止面17aとで造る平面は、対蓋係止面となり、この対蓋係止面が略水平になるため、下側の食品用包装容器に対して上側に積み重ねた食品用包装容器は水平に載置される。

【0025】

容器本体11や蓋体51は何れも合成樹脂製のシート材から真空成形や圧空成形等の熱成形の手段を利用して成形できる。蓋体51は中味の食品が見えやすいように透明で曇りにくい合成樹脂材が用いられる一方で、容器本体11はその表面に種々の装飾がなされることが好ましく不透明材であって良い。

容器本体11や蓋体51の材質には、例えば、ポリスチレンやポリスチレンを主体とする共重合体等のポリスチレン系樹脂、ポリエチレンやポリプロピレン、オレフィンを主体とする共重合体等のポリオレフィン系樹脂、ポリエチレンテレフタレート等のポリエステル系樹脂、その他の各種の熱成形可能な合成樹脂が挙げられる。

【0026】

容器本体11は、収容される食品、特に刺身を詰めた場合に、ボリューム感を持って、かつ立体的に視認することができる。また、この食品用包装容器を積み重ねた場合には、安定的に積み重ねることができる。

また、後述する第3実施形態で示す容器本体31のように傾斜面の端に水平部を有していないため、傾斜面14の全体を使って理想的な盛りつけを行うことができる。

【0027】

第2実施形態 [図5、図6]：

図5、図6には、食品載置部22bが先の実施形態で示した容器本体11と相違する別の実施形態である容器本体21を示す。本実施形態による容器本体21の底部22には、側壁13の一辺13a側から水平に伸びる前側水平部24dと、その前側水平部24dから対向辺13b側にせり上がる前側傾斜部24a、そして段部24cを挟んで水平に伸びる後側水平部24eと、その後側水平部24eから対向辺13b側にせり上がる後側傾斜部24bとで形成される傾斜面24を有している。

なお、容器本体21の正面や右側面は、容器本体11と同様に表れる。

【0028】

支え突起17を有しているのは先の実施形態で示す容器本体11と同じであるが、本実施形態では、後側水平部24eと後側傾斜部24bの境部分からやや後側傾斜部24b寄りの位置に支え突起17を設けている。

【0029】

容器本体21に蓋体51を被せた食品用包装容器を縦に積み重ねると、容器本体21の前側水平部24dと支え突起17の先端である係止面17aとが蓋体51の天面52に対して水平に接する。そのため、積み重ねた食品用包装容器を水平に保つことができる。前側水平部24dと係止面17aとで形成する対蓋係止面が略水平になるからである。

【0030】

また、後述する第3実施形態で示す容器本体31のように、外部から視認しやすい上側傾斜部の端に水平部を有しないため、この容器本体31よりは見栄え良く食品を盛りつけることができる。

【0031】

第3実施形態 [図7、図8]：

図7、図8には、さらに別の実施形態である容器本体31を示す。本実施形態による容器本体31の底部32には、第1実施形態で示した容器本体11に似た前側傾斜部34aと後側傾斜部34bと段部34cとを有する食品載置部32bを備えるが、この食品載置部32bには支え突起17が設けられていない。また、傾斜面34の隅には、4つの脚部12a、12a、12a、12aとの間に4つの水平部である蓋受け面38a、38b、38c、38dが形成されている。この蓋受け面38a、38b、38c、38dは、蓋体51の天面52に当接する。

なお、容器本体31の正面や右側面は、容器本体11と同様に表れる。

【0032】

容器本体31に蓋体51を被せた食品用包装容器を縦に積み重ねると、容器本体31の4つの脚部12a、12a、12a、12aの内側に設けた4つの蓋受け面38a、38b、38c、38dが蓋体51の天面52に対して水平に接する。そのため、積み重ねた食品用包装容器を水平に保つことができる。これは、4つの蓋受け面38a、38b、38c、38dで形成する対蓋係止面が略水平となるからである。

【0033】

変形例：

支え突起17は、後側傾斜部14b、24bの略中央部分に一つだけ設ける例を示しているが、一つに限らず複数個設けることができる。蓋体51に容器本体を載置した際のバランスを考慮する必要がある、複数個設けるとより安定するからである。また、支え突起17以外の蓋体51との当接面は、傾斜面の基端であったり水平部であったりしたが、支え突起17を複数設けて、この支え突起17だけで蓋体51に当接するようにしても良い。

【0034】

なお、上記実施形態やその変形例で示した例は例示であり、こうした形態に限定されるものではなく、本願発明の趣旨に反しない任意の変更形態を含むものである。即ち、上記実施形態で示した一部の構成を含まなかったり、別の公知の構成を含んだり、代替した構成を採用したりしている場合も本願発明の範囲に含まれる。

例えば、脚部12aを底部12の4隅に設けるのではなく、底部12、22、32の四辺の各々の中心部分に設けるようなものであっても良い。

【符号の説明】

【0035】

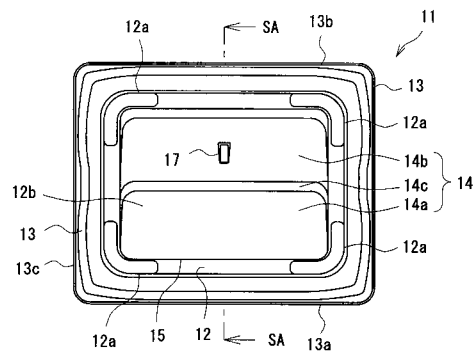
- 1 容器本体
- 2 底部
 - 2a 脚部
 - 2b 食品載置部
- 3 側壁
 - 3a 一辺
 - 3b 対向辺
 - 3c 蓋体受け部
- 4 傾斜面
 - 4a 前側傾斜部
 - 4b 後側傾斜部
 - 4c 段部
- 11, 21, 31 容器本体

- 1 2, 2 2, 3 2 底部
 1 2 a 脚部
 1 2 b, 2 2 b, 3 2 b 食品載置部
 1 3 側壁
 1 3 a 一辺
 1 3 b 対向辺
 1 3 c エッジ部
 1 4, 2 4, 3 4 傾斜面
 1 4 a, 2 4 a, 3 4 a 前側傾斜部
 1 4 b, 2 4 b, 3 4 b 後側傾斜部
 1 4 c, 2 4 c, 3 4 c 段部
 2 4 d 前側水平部
 2 4 e 後側水平部
 1 5 (傾斜面の) 下側基端
 1 7 支え突起
 1 7 a 係止部
 3 8 a, 3 8 b, 3 8 c, 3 8 d 蓋受け面 (水平部)
 5 1 蓋体
 5 2 天面
 5 3 フランジ部
 5 4 側面部

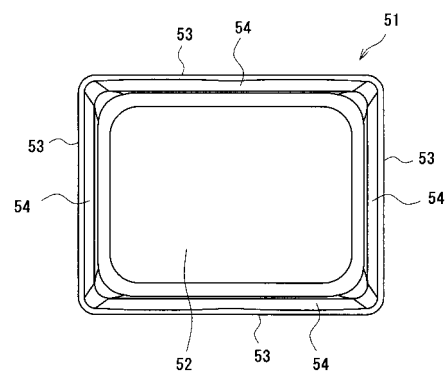
10

20

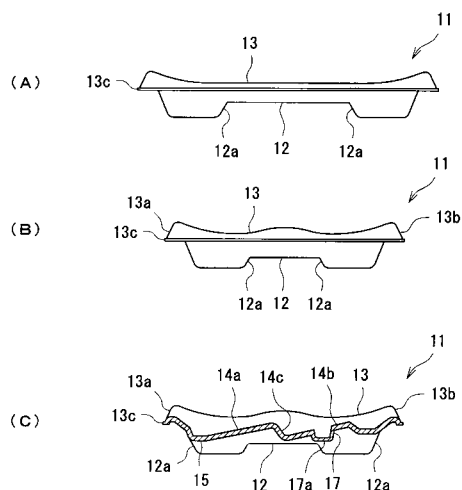
【図 1】



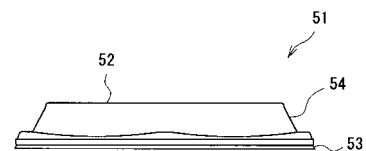
【図 3】



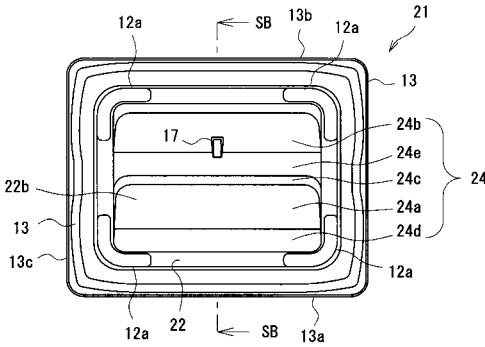
【図 2】



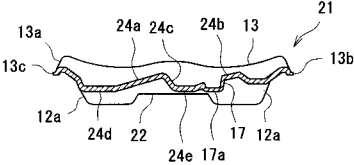
【図 4】



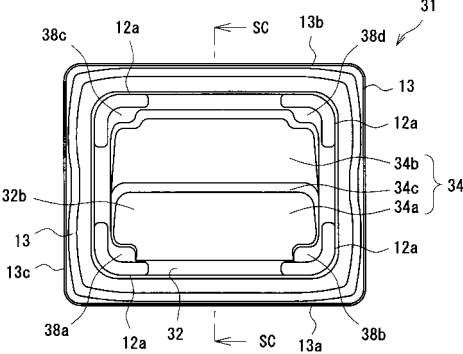
【図 5】



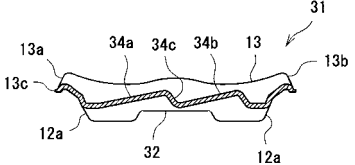
【図 6】



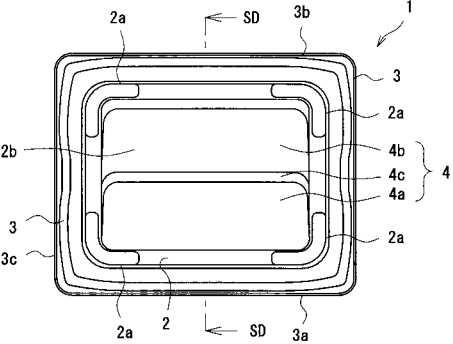
【図 7】



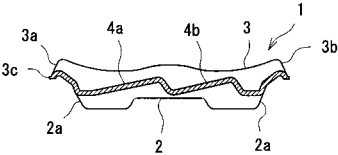
【図 8】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3E033 AA10 BA13 DA04 DA08 DD05 DD06 DD13 EA09 FA04 GA03
3E035 AA04 AA11 AA20 BA02 BB01 BB10 BC02 CA02